

札幌圏 大規模地震災害時の 緊急対応等を考える

石狩湾新港地域の機能を活用した 大規模地震対応に関する検討会 開催

3月6日(火)、当部小樽港湾事務所にて、上記の検討会を実施しました。

この検討会は、札幌圏に大規模地震災害が発生した場合に、石狩湾新港で整備中の耐震強化岸壁をはじめとする港湾施設やその周辺の国道、空港等の社会資本とともに石狩湾新港地域にある多様な民間資産、機能を活用した産官連携による緊急対応や復旧・復興対応の可能性等について検討することを目的としたものです。昨年の5月から目的に賛同して参加いただいた関係地方自治体や港湾管理者、民間企業等のメンバーと検討を開始し、今回が4回目の検討会開催となりました。

これまでの検討により、社会資本と民間資産等を産官連携のもと活用することで、札幌圏に大規模地震災害が発生した場合、石狩湾新港地域の機能が緊急対応等に大きな役割を果たしうる可能性のあることが分かりました。この詳細な内容につきましては、2月に取りまとめた検討報告を公表していますので、是非[コチラ](#)をご覧ください。



座長の平澤小樽開発建設部長

さて第4回目となる今回の検討会では、石狩湾新港地域の持つ可能性を実効性あるものにしていくための体制づくりについて検討しました。その結果、産官に加えて学識経験者や市民等も参加していただき、社会資本や民間資産の最新情報の共有、ネットワークの形成、災害時支援意識の再確認を主な目的とするプラットフォームを設立し、定期的に情報や意見の交換を行っていくことになりました。

検討会は各種報道機関からも取材していただきました



今回を持って本検討会は終了しプラットフォームへと引き継がれていくことになります。プラットフォームでは引き続き当部が事務局を務めさせていただく予定ですが、その主旨に賛同する幅広い方々に参加いただき、札幌圏での大規模地震時に備えてお互いの顔が見えるネットワークが形成されていくことを期待しているところです。

